

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071200572		
法人名	株式会社大慈会		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地 (電話番号)	福岡市西区福重1丁目5-13 (電話) 092-882-3999		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年7月9日	評価確定日	8月4日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	9人, 非常勤 3人, 常勤換算 11.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分		
------	---------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(550,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,700円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今津日赤病院・福岡リハビリテーション病院・新室見診療所
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者は、阪神淡路大震災後に身内の介護(認知症)が必要になったことがきっかけで、認知症になっても障害があっても「安心して暮らし続けられる」グループホームを目指したいと代表者自らがケアの現場で経験を積み重ね、自分自身が入居したいホーム・家庭的な温かさを感じられるホームとして開設した。室見川に面した自然豊かな閑静な住宅地の中に立地し、日本家屋の特徴を活かした住まいとして、各部屋に障子をしつらえ、床暖房の設備も整え、ゆったりと落ち着く空間を実現している。ホーム前には、花壇と「桜の木」・「もみの木」が植えられ、季節感溢れる自然豊かな環境を整えている。今後は、さらに地域との連携を高め、地域の福祉拠点として発展していくことが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「記録が少ない」という前年度の改善課題に対し、職員全員が記録を書く習慣を身につけることを目標に取り組みされた。全職員が共通理解できるフォーマットづくりがなされているが、今後は、さらに記録の整理も検討されると良いと思われる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目を全職員で検討しており、代表者・管理者・職員は、常に問題意識を持ちながら、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	現在、運営推進会議を開催しているが、会議のテーマや内容など運営推進会議の主旨にそった開催を目指して、日々検討しているところである。地域包括支援センターの保健師の参加や町内会長・公民館関係者など、参加メンバーの輪を広げる方向で参加メンバーも検討している。今後は、さらに運営推進会議の機会を活かし、地域との交流など深めていくことが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1回「さくらだより」を発行し、入居者の状況報告を写真の掲載し、行事予定などを報告している。また、家族の訪問時には、コミュニケーションを取り、家族との関係づくりと情報交換に努めている。また、職員は、入居者の家族もホームの家族の一員という認識で接している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、校区の祭りや行事などに参加している。近隣の方とはグループホームの前を通る際に挨拶や声をかけ、休んでもらうように勧めたり、玄関前の花壇の整備等にも力を入れ、通る方々に立ち止まり楽しんでもらえるように心がけ、地域の方々との交流のきっかけになるよう努めている。今後、グループホームの認知症ケアのノウハウを活かし、介護相談などを通して地域との関係づくりや交流を深めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3カ条の理念「1.あなたの親御さんを安心して預けることができますか 2.あなた自身が入居したいと思えるところですか 3.介護のプロとして冷静さと家族としての温かさを」を掲げ、職員の自己研鑽と共に入居者一人ひとりが安心でき、家庭的な雰囲気のなかで過ごすことができるように理念を基に支援している。		地域密着型サービスとして、「地域住民との交流」など、地域連携を示す理念の構築が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また各所に明示することによって、ミーティングなどの際に理念を掘り下げるなど再確認を行い、具体的なケアについての共通認識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域行事にも積極的に参加するようにしている。状況に応じて地域との接点を持てるように心がけている。		公民館とのつながりを活かし、公民館へ入居者の作品を出展したり、グループホームの認知症ケアのノウハウを活かして、認知症についての理解を地域に発信するなど、関係づくりを高めていくことが必要である。運営推進会議の機会を活かし、多様な地域住民の方に参加していただくなど工夫が必要である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	三度目の外部評価でもあり、サービス評価の意義や目的を職員に伝え理解を深めている。毎年、評価後には、助言等を参考にしてシステムなど改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に取り組んでいるが、運営推進会議の内容やテーマに関して、主旨にそった開催を目指して、日々検討しているところである。参加メンバーの輪を広げる方向でも検討している。今後は、さらに運営推進会議を活かし、地域との交流など深めていくことが求められる。		運営推進会議の主旨にそった開催に努力されているが、地域との接点として運営推進会議の機会や場を活かすことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所や区役所の担当者と情報交換を行う機会が増え、連携が少しずつ取れるようになり、相談などができる関係を構築している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、権利擁護の制度を利用されている方がおり、必要に応じて制度の説明や利用の提案をしている。また、グループホーム協議会や市町村主催の研修会に参加し、全職員の理解を深めるように心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、「さくらだより」を発行し、入居者の様子がわかるように写真の掲載と行事報告・予定などを報告している。家族の訪問の際には、入居者の状況報告を行い、家族と職員とのコミュニケーションを図り、良好な関係づくりを行っている。家族同士の交流の場として、母の日と敬老の日の年2回に家族会を開催している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族もホームの家族という視点で、訪問時には必ず家族とのコミュニケーションを取り、話しやすい関係や雰囲気づくりに心がけている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ数年大きな変化は無く、職員の異動・離職などはなく安定している。また、事業所開設後に、別サービスに異動した職員も訪れ、大事な人間関係を維持するように働きかけている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用に当たっては、性別や年齢など採用から排除しないようにしている。職員が働きやすい環境づくりや会議やミーティングにおける職員の意見の吸い上げなど、普段から職員のやる気を引き出す支援を行い、向上心の維持にも心がけ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎月1回、身体拘束廃止委員会を開催し、虐待などの問題を取り上げ、具体的に人権に関してわかりやすく説明し、職員の理解を育む取り組みを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員個人に応じた計画と方向性を見出し、研修の参加を促している。職員の休憩室に参考となる書籍等も自由に見れるように設置している。研修を実施しているが、研修の記録や研修資料がまとめられていない。		研修に対してバックアップをしているが、研修記録がない。来年に向けて是非記録や研修内容の保存をお願いしたい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入し、実習の受け入れなど、ネットワークを築いている。ネットワークにより、実習や研修等の交流をきっかけに、それらの縁を有効に活用・維持し、お互いの向上の糧としている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前の準備段階で、ご本人・ご家族にお会いし、充分お話をする機会をつくっている。お互いの気持ちを体験入居によって確認した後、入居いただいている。状況によって、自宅又は病院に出向き、顔見知りになることによって、なじみの関係により、徐々に入居へと繋げることができるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々の生活暦や趣味・趣向により、できる限り残存能力を大事にしながら、役割を果たしていただいている。(畑の食材摘み・掃除・洗濯物たたみ・桜もち作り・散らし寿司作り・下膳など)		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>東京センター方式を導入中、取り組んでいる状況にある。センター方式の導入によって、入居者一人一人の生活暦・意向を細かく収集することができるようになった。個別の援助を常に意識しながら、ご本人に寄り添った生活・人生の一部となるよう努めている。</p>		<p>センター方式の導入により、入居者の思いや意向を把握できるが、どのように介護計画に落とししていくのが課題である。センター方式を活かした介護計画の作成が望まれる。また、入居者のその日1番の出来事を申し送り伝えていくなど検討されてはいかがだろうか。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向にできる限り近づくために、センター方式を導入中である。職員が介護計画作成時にに関わり、自分も関わったプランであるという自信や遣り甲斐を持たせるように支援しているが、短期目標の設定により、介護方法の統一化を図るなどケアの共有化が求められる。</p>		<p>介護計画に短期目標を設定することが求められ、その短期目標を達成するために、介護方法及び手順書を作成し、個別ケアの介護の統一化・情報の共有化を図っていくことが求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の短期目標の達成に向けて、短期目標の確認・見直しを図っていくことが求められる。</p>		<p>介護計画の短期目標の1ヶ月ごとの見直しにより、個別のニーズに対応したケアの実施及び臨機応変な計画の見直しができると思われる。</p>
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医の定期的な受診は、基本的に家族が付き添っているが、家族が同行できない場合には、職員が同行している。買い物や冠婚葬祭などの場合は、介護タクシーの利用など希望にそって支援している。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者膳のかかりつけ医を基本的には主治医とし、他県の方々には、いくつか現在往診してもらっている病院と地域周辺の病院を希望すれば紹介している。医療連携の充実を図り、協力体制を確立している。(新室見診療所・福岡リハビリテーション病院・今津赤十字病院など)</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>過去に家族の希望で終末期を迎えた方がおり、終末期におけるサポートを行っている。普段から家族に対し、重度化の可能性や現在の状況を話し、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。</p>		<p>ターミナルケアに取り組まれた実績があり、ターミナルケアに関して、さらに関係者の方針や具体的内容を話し合い、グループホームとしての対応方針を定めるなど今後に期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の言葉かけは、その都度注意しており、丁寧な言葉かけを心がけるように気をつけている。記録などの個人情報、事務所の鍵がかかる所に保管し、ファイルなども自由に持ち出せないように管理している。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの生活パターンやその日の状態に応じて、ペースを尊重し支援している。入居者の趣味である手芸・折り紙・音楽・三味線・踊り・コーラスなど、楽しんでいただけるように準備し提供している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者ができることを支援しており、畑からの野菜の調達や材料を切ったり、混ぜる料理の下ごしらえなど行っていただき、食事全体を楽しむことができるようにしている。献立は職員が普段の会話やアセスメント情報から極力ご本人の意向にそようにしている。入居者一人ひとりの出身地を考慮し、中間的な味付けを心がけている。季節毎に外出をし、外食も取り入れるようにしている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の気持ちにそって、タイミングを見計らい、楽しく入浴できるように支援している。また、希望に応じて入浴できるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	少しでも充実した生活を送ってもらえるように、センター方式を活用することで、生活暦の中から見えてきた趣味趣向と残存能力のバランスを加味しながら、張り合いや楽しみごとのある日々を支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	桜・紫陽花・もみじ・コスモスなど、季節ごとの花見見物に出かけ、日常的には買い物と一緒にいたり、外出の機会を増やす努力をしている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	以前は掛けていなかったが、過去に不法侵入者があり、入居者の精神的混乱に大きく繋がったので、家族との検討の結果、現在玄関には施錠を行うようにした。職員が、玄関横の事務所にいる時などは、施錠しないなどの工夫を充分行っている。		家族への口頭の承諾だけでなく、承諾書として書類を残すことが求められる。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年1～2回、消防訓練を実施している。マニュアルと連絡網の完備、それによる練習を行っている。近郊に住むスタッフやボランティア、その他ご近所の方々の協力を常日頃からお願いしている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	量やバランスの他、食事に要する時間等も一人一人の状態に応じた対応を心がけている。水分摂取は、一日1000～1200ccを目安にしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	設計時より、自分たちの親が過ごす場所・実家というコンセプトで、空間構成や手すりなど細かく、こだわって設計した。障子と天窓による自然採光の利用により、とても落ち着きのある空間を生みだし、間接照明など、自然の明かりに近く、落ち着いた住まいを提供している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	なじみのある居心地の良い空間として、居室内の家具類などは、全て各個人で使用していた物が持ち込まれている。洋室・和室の種類があり、和室の場合は、ベッドではなく使い慣れたお布団も使用され、入居者のこれまでの暮らしの継続を支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			